



2015年6月1日

No. 111

「みことばを学び合い、みことばに生きる」

キリスト者学生会 総主事 高木 実

If I hear it,	I forget it.	聞くだけでは	忘れてしまう
If I see it,	I remember it.	見ると	覚える
If I do it,	I understand it.	行えば	理解する
If I find it,	I use it.	見つけると	使っていく

上の言葉は、どこかで、どなたかの紹介で知ったものですが、グループ聖書研究の意義を考えるのに助けになると思います。

KGK（キリスト者学生会）では、学生たちの成長のため、講義形式での聖書講解や教理的な学びも大切にしています。それとともに各大学内での活動が特にそうですが、キャンプや合宿の中でのプログラムとしてもグループ聖書研究を大事にしています。多くの卒業生たちが「学生時代にしたグループ聖研がとても良い経験になった」と振り返って語り、卒業後の同期会の集まりでもグループ聖研をします。

KGKのグループ聖書研究会では、ともに聖書を読み、学生同士でディスカッションする中、聖書の真理を人から聴くだけでなく、自分なりに受け止めたことを自分の言葉で発言しなくてはなりません。ですから何度も聖書本文に目を落とし、結果的に単なる受け身ではなく、より能動的に聖書に向き合うこととなります。そして自ら気づき、悟らされた真理は、やがて忘れ去られてしまう一時的な知識ではなく、それに応えて生きることへの応答を促します。勿論それは学習方法いかなの問題ではなく、そこで働く御霊とみことばそのものの力（ヘブル 4:12）であることには違いありません。自分で「聖書を調べ」（使徒 17:11）ているつもりが、そのみことばによって私たちの心が探られるということが実際に起こるのです。

グループ聖書研究には大事な3段階があります。1) 聖書本文に書かれている事実の観察、2) 語られていることの意味の解釈、3) 生活への適用です。私自身にとっても、学生時代からこのようなことに意識を向けながら、聖書に自分の考えを読み込むのではなく、聖書の語る真理を読み取るという良き訓練の経験となりました。そして単なる知的な聖書研究に終わらせず、語られていることを自分の現実の中で思い巡らし、生活へ適用することが、今も学生伝道の働きに仕え、みことばのご奉仕もさせていただく者としての基盤となっています。